

トランスファーボード 『移座えもん』取扱説明書

お客様へ

このたびは、モリトー製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございました。
移座えもんを安全にご使用いただくために、この取扱説明書を必ずお読み下さい。
なお、使用方法に関しましては、基本的な事項に重点を置きましたので、それぞれの
状況に応じた使用方法については専門家に御相談下さい。

ご使用前の確認

環境



- ① ベッドについては、基本的にハイロー対応
- ② ボトム・底板がフラットになる。
- ③ マットレスなどは、端座位が安定してとれるもの。
- ④ 車椅子は、アームレストが取り外しができるか、十分に跳ね上げが出来るもの。
- ⑤ 車椅子のレッグサポートの取り外し機能を有するもの。

身体状況



- ① 端座位が安定して取れる、若しくは軽補助で安定する人。
- ② 重度の褥瘡がない人。
- ③ 筋緊張などにより、極度の伸展位にならない人。
- ④ 股関節屈曲角度が、90度以上可能な人。

仕様



主仕様

寸法①	290mm
寸法②	618mm
寸法③	72mm
寸法④	146mm
寸法⑤	72mm
重量	650g
材質	PP
耐荷重	100Kg



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険性がある内容を記載しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生する内容を記載しています。

お問い合わせ

製品に関するお問い合わせについては、弊社お客様相談室まで御連絡下さい。



お客様相談室 ☎0120-65-2525
【モリトーホームページ】 <http://www.moritoh.co.jp>
【E-mail】 info@moritoh.co.jp

■本 社 / 〒491-0074 愛知県一宮市東島町3-36

TEL(0586)71-6151 FAX(0586)72-4555

ベッドから、車椅子へ移乗するときは、座位が安定していることを確認して下さい。

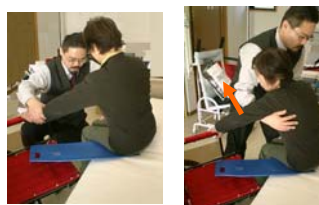
準備


安定した端座位の設定確認

- ① 足を自然な形で肩幅より少し狭いくらいに開く。
- ② 足底の全面が接地している状態にする。
- ③ 手の指二本、中指と薬指にて臀部から膝裏に向けてなぞる。
- ④ 指にかかる圧力が均一であるようにベッドの高さを調節する。



- ① 対象者に端座位をとらせる。
- ② 対象者の前方に立ち、対象者の膝を閉じる。この時介助者自身の膝で挟み込むようにする。
- ③ ボード差込と反対側の腋下に手を入れてサポートする。この時腋の下を握るのではなく、肩甲骨下部を手のひら全体で支えるようにする。
- ④ ボード差込と反対側に対象者の体幹を傾ける。先に差し込んで支えている手を平行に移動する。
- ⑤ ④により、空いた臀部に移座えもんを挿入します。挿入方法は移座えもんの切り欠き部を折りたたみ、切り欠きのない部分を対象者の後方より臀部の割れ目に沿って水平に挿入します。移座えもんの中央部まで挿入できたら、折りたたみ部を開き握り場所を持ち替えながら、臀部からはみ出さない位に更に挿入します。対象者の股間より見て移座えもんが股間中央にあることを確認して下さい。そして、対象者の体幹を保持しつつ(上記③参照)、ボード端のハンドル部を軽く持ち上げて、移乗先方向に概ね30度位回転します。この時、対象者の足が閉じている事。また、介助者の膝で回転を促します。この時の注意点としては以下の事柄があります。
 - A 対象者の臀部がしっかりと浮いていることを確認してから挿入して下さい。
 - B ベッドのマットレス等が柔らかい場合は、臀部が浮きにくい場合があります。この時に無理に移座えもんを挿入しないで下さい。対象者の臀部の皮膚に傷が付く場合があります。
 - C 車椅子からの移乗動作では、臀部と車椅子背シートとの間に隙間がないため、ヒップウォーキング等の技術により、対象者の姿勢を適切な位置に安全に調整して下さい。その他では、対象者自身が背シートに背を押し付ける事によっても可能です。
- ⑥ 移座えもんを広げ、対象者の体幹を支えながら、車椅子を近づけます。この時、車椅子のレッグサポート及び、移乗側のアームレストはあらかじめ取り外しておきます。また車椅子自体は、介助者が扱いやすいようにブレーキを掛けたままで、引き寄せます。
- ⑦ 車椅子を適切な位置に調整します。ベッドと平行位置から30～45度程度の角度に接近します。最適位置は、対象者が移乗先側の腕を真直ぐ伸ばして車椅子のアームレストに届く(握れる)位置とします。車椅子の構造などにより変化しますので、状況にあわせて調整して下さい。ボードとの位置関係では車椅子座面の対角線上にボード端が重なるように車椅子の角度と位置を調整して下さい。
- ⑧ 対象者の足の位置を調整します。移乗後の足の位置と方向を想定し、移乗先側の足をやや前に出し、反対の足をやや引きます。かかとの方向は移乗先の方に向けてます。
- ⑨ ベッドの高さを調整します。高低差は**5センチ程度必要です**。
- ⑩ 対象者に車椅子のアームレストに掴まっただきます。介助者は移乗方向側の対象者の腋下をサポートします。(前記③参照)
- ⑪ 対象者は、アームレストに掴まった腕のヒジを斜め上方に曲げます。この時の介助者は、対象者に対して移乗先と反対側に頭を向けます。
- ⑫ 対象者の重心移動を誘導し、移乗先に降り始めたら、到達予定点に方向を誘導します。車椅子へ移乗する場合は、対象者のわき腹がアームレストに激突しないようにサポートの手でブレーキを掛け、停止の直前でサポートの手を少し持ち上げる動作をします。動作の意味としては、一定距離を移動すると、対象者の坐骨がボードから外れますから、ボードに乗っている側の坐骨に重心を乗せ換え、臀部を車椅子座面奥に誘導します。コツとして臀部を若干、回転させる方向に誘導します。
- ⑬ 対象者の移動が停止し、体幹が保持できたら、ボードを少し持ち上げ、臀部方向に回転させます。この時、対象者の膝裏にボードが接触していることが多く、即座に対処が必要です。
- ⑭ ボードを回転させた状態でも、対象者の骨盤はボード上にあるため、容易に姿勢を調整できます。手順としては、対象者を前屈させ、背中にスペースを確保した後、膝を後方に押し込みます。
- ⑮ 取り外しは、ボードのハンドル部を上方に引く事により容易に抜けます。



- ① 対象者に端座位をとらせる。
- ② 対象者の前方でかがみ、移乗先と反対側の膝を立てて片膝をつき、対象者の膝を閉じる。
- ③ 立ち膝をした方の対象者の腋下に手を入れてサポートする。この時腋の下を握るのではなく肩甲骨下部を手のひら全体で支えるようにする。
- ④ 対象者を軽く前屈させるように若干体が丸くなるように誘導し、介助者の肩で対象者の体重を支え、体幹を安定させる。すると、傾きと反対の方向の臀部が浮く。
- ⑤ ④により、空いた臀部に移座えもんを挿入します。挿入方法は移座えもんの切り欠き部を折りたたみ、切り欠きのない部分を斜めに挿入します。この時、ベッドや車椅子座面との接地部はベッドに水平に折れるため、挿入しやすくなっています。切り欠き部の曲線を臀部の曲線にあわせ、移座えもんの挿入部先端が対象者の坐骨の下に到達するまで押し込みます。
- ⑥ 移座えもんを広げ、対象者の体幹を支えながら、車椅子を近づけます。この時、車椅子のレッグサポート及び、移乗側のアームレストはあらかじめ取り外しておきます。また車椅子自体は、介助者が扱いやすいようにブレーキを掛けたままで、引き寄せます。
- ⑦ 車椅子を適切な位置に調整します。ベッドから見て、ベッドと平行位置より30～45度程度の角度に接近します。最適位置は、対象者が移乗先側の腕を真直ぐ伸ばして車椅子のアームレストに届く位置とします。これは車椅子の構造などにより変化しますので、状況にあわせて調整して下さい。ボードとの位置関係では車椅子座面の**対角線**上にボード端が重なるように車椅子の角度と位置を調整して下さい。
- ⑧ 対象者の足の位置を調整します。移乗後の足の位置と方向を想定し、移乗先側の足をやや前に出し、反対の足をやや引きまします。かかとの方向は移乗先の方向に向けまします。
- ⑨ ベッドの高さを調整します。移乗元と移乗先の高低差は**3～5センチ**以内とします。
- ⑩ 対象者に車椅子のアームレスト(外側)に掴まさせていただきます。介助者は移乗方向と反対側の膝を手のひら全体でブロックします。これは対象者が前方に倒れこまない為の方策です。もう一方の手(移乗先と反対側)で、対象者の骨盤を側方からゆっくりと押しまします。
- ⑪ 対象者は、アームレストに掴まった腕のヒジを斜め上方に曲げまします。この時の介助者は、対象者に対して移乗先と反対側に頭を向けまします。原理として、ボードは重心の移動により動作をコントロールしましますから、対象者の頭の位置は、ベッドと車椅子の移乗予定位置中間にあるのが理想で、移乗先を見るようにしまします。対象者の身体状況によっては、介助者が抑えている膝側の足で、地面を蹴るように力を入れていただくによりスムーズ且つ容易に移乗が可能です。
- ⑫ 対象者の重心移動を誘導し、ゆっくりと到達予定方向に移動しまします。一定距離を移動すると、移動が停止するか、移動自体が重くなります。この時点ではほぼ移動予定地点に移動してはいますが、対象者の坐骨は移乗方向側がボードから外れます。ボードに乗っている側の坐骨に重心を乗せ換えるために、③の方法を用いて、移乗元側に傾け、さらに深く移動しまします。その後、前後方向の着座姿勢を整える為、横方向に押しましていた骨盤を後方(臀部方向)に押し込みまします。
- ⑬  対象者の移動が停止し、体幹が保持できたら、ボードを臀部方向に回転させまします。この時、対象者の膝裏にボードが接触していることが多く、即座に対処が必要です。
- ⑭ 取り外しは、ボードのハンドル部を上方に引く事により容易に抜けまします。この時、対象者の体重が軽い場合や、対象者の着衣が滑りやすい材質である場合などでは、坐骨が横方向にズレることがあります。ボードの引き抜きの際、臀部に横滑りの兆候が見えた時は、大腿部を手のひらで横方向に押さえたのち、引き抜いて下さい。

